



第 017 号 2020 年 8 月 14 日 坂口寿一

### PCR 検査の顛末

この時期に風邪？、嫌な予感がしていましたら、強烈な寒気が襲い、体温計を見れば、久しぶり？に、37.9 度を指しているではありませんか！ 喉は大して痛くありませんでしたが、僕にとってはあまり経験のない強めの頭痛が継続し、体は当然のようにダルオモになっていました。直感ですが、いつもの風邪の症状と違う？まさか？と訝りながらも、不安が増すものですから、藤沢市の保健所に電話してしまいました。

症状を聞き取り、専門家が検査の可否を検討して、要の場合は検査できる病院の予約までやってくれるのですが、判定結果が出るまで1時間ほど待たされます。最初の電話では、検査を受けられるかどうかは、微妙と言われました。その日は日曜日だったので、翌日、再度電話することになりましたが、そうとなれば、検査を受けられるようにと、普段の自制ぶりから、症状が出始めてからの事細かい状況をメモしておいて、丁寧に説明しました。もちろん、79 歳と高齢であり、基礎疾患があることも強調しました。

1 時間後に、保健所から「辻堂の A 病院を予約したので、明日 11 時に行くように」と返事がありました。それから、「病院に着いたら中に入る前に電話をして指示に従うこと、病院名は口外無用」と注意がありました。

当日、ちっちゃなプレハブのバラックな建物に入り、PCR 検査を受けました。僕が入る前に、若い女性が不安そうな表情を見せることなく出てきたので、気後れすることはありませんでしたが、今、一番危険なゾーンに居ることも間違いのないと思うと、少し緊張もしました。鼻から、長くて太い綿棒のようなものを通され、体液を採取されたのですが、一瞬とは言え、とても痛かったです。

そして2日後、病院の先生から「陰性でした。心配ありません」と電話があった時は、「良かったあー！」と思わず叫んでしまいました。 ・ ・ ・ 蛇足ながら、費用は、初診料の 710 円だけで済みました。

坂口寿一（傘寿の湘南ボーイ）